

2024食肉産業展 食肉情報セミナー

「大きく変わる国内の食肉流通を追う」

～ 日本食肉流通センターの部分肉価格データを中心に
各種データを加えて、食肉取引の変化を追う～

2024年3月6日（水）

公益財団法人 日本食肉流通センター

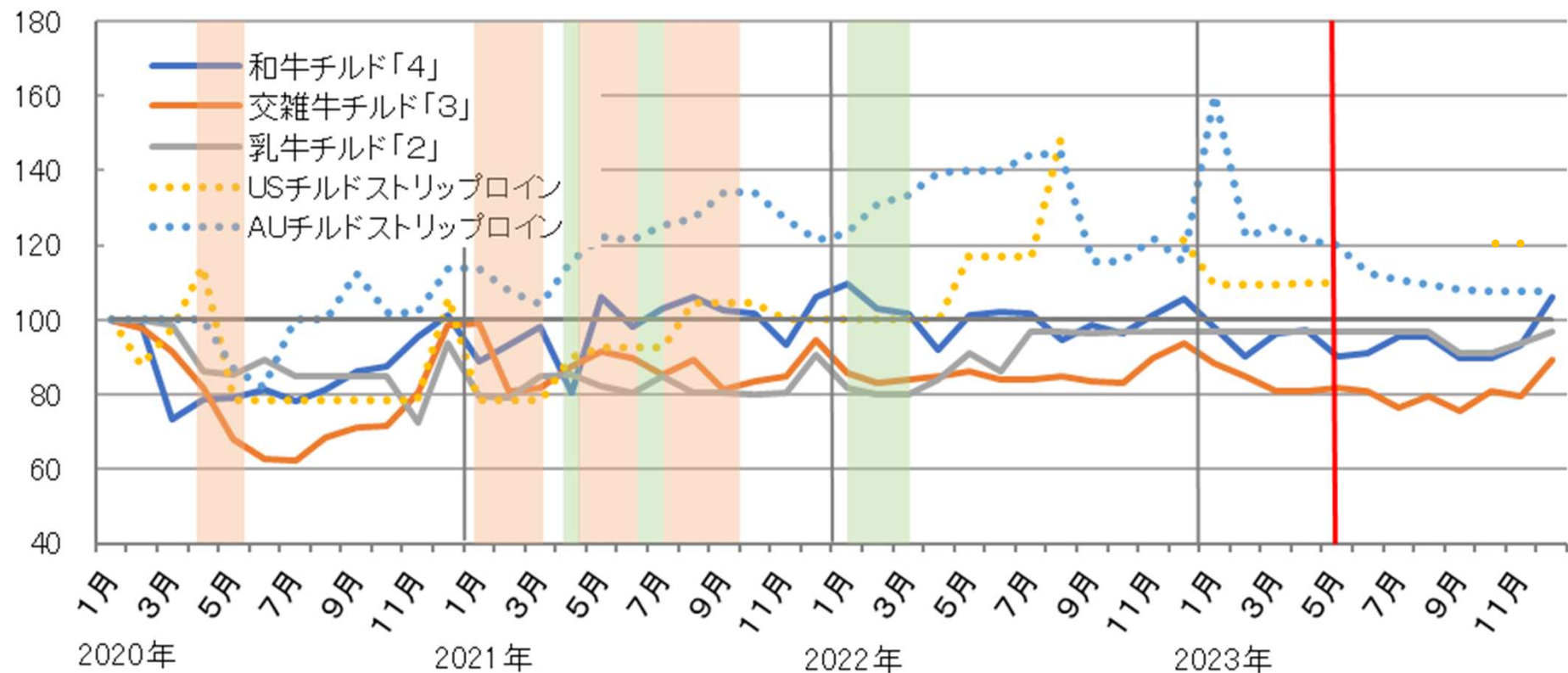
情報部長 安藤 松太郎

国内の食肉流通に影響を与えている主なできごと

- | | | |
|---|---|---------------|
| ① | 新型コロナウイルス感染症 | |
| | 国内での最初の感染者を確認 | 2020年 1 月15日 |
| | 緊急事態宣言（1回目） | 2020年 4 月 7 日 |
| | まん延防止等重点措置の終了 | 2022年 3 月21日 |
| | 感染症法上の位置づけを 5 類に移行 | 2023年 5 月 8 日 |
| ② | コロナに伴う輸入食肉の供給停滞 | 2020年～2021年 |
| ③ | 穀物相場の上昇 | 2021年～ |
| ④ | 国内物価の上昇 | 2022年～ |
| ⑤ | ロシアによるウクライナ侵攻 | 2022年 2 月24日 |
| ⑥ | 円安の進行 | 2022年 3 月中旬～ |
| | 米ドル/円 2022年 3 月上旬：115円 → 2022年10月・2023年11月：151円 | |
| ⑦ | ガザ地区での戦闘 | 2023年10月 7 日～ |

1-1 牛部分肉の部位別価格の動向（ロイン）

図1 牛ロインの価格指数（首都圏）



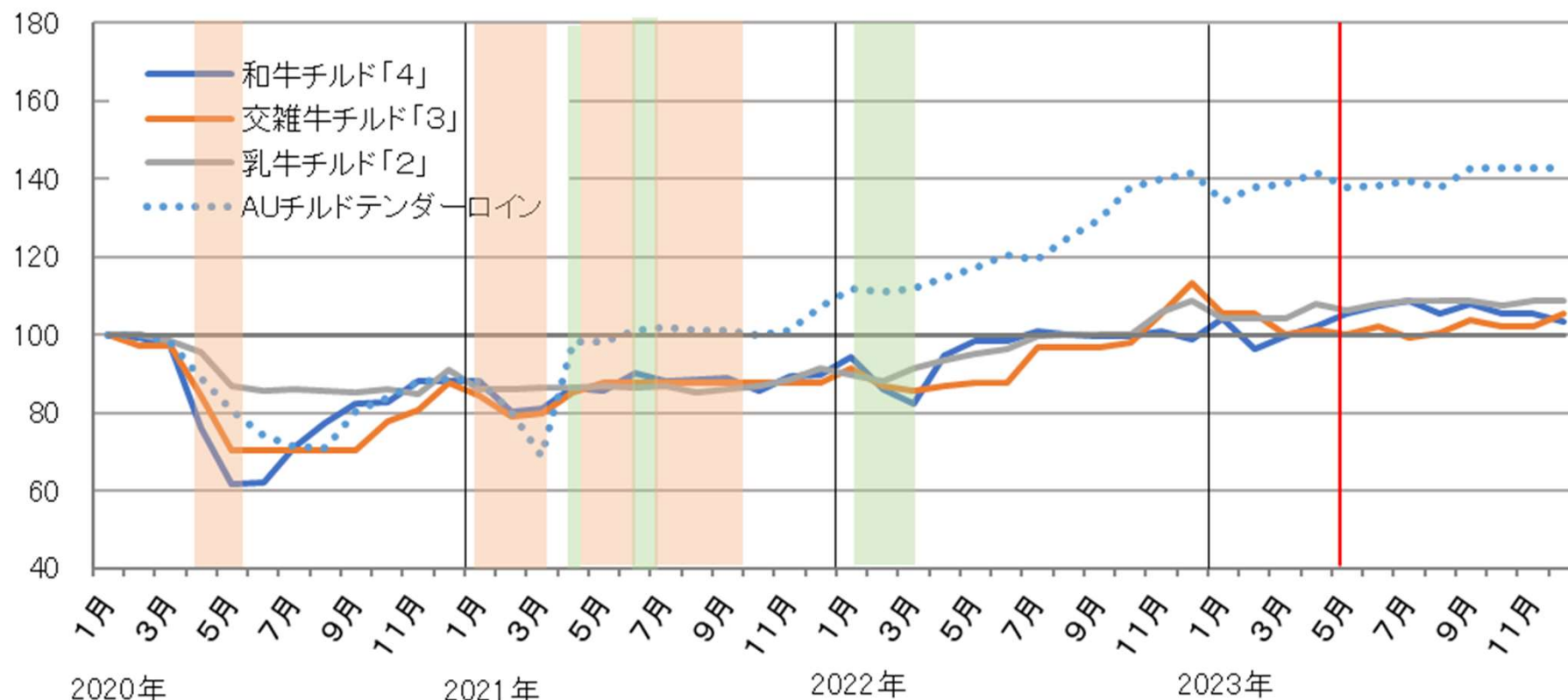
注1. 価格指数＝各月の重量中央値/2020年1月の重量中央値×100

2. グラフ背景の は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間、赤線は5類へ移行を示す。

- ・ 国産ロインは、コロナ発生の影響によりどの畜種も低下。
- ・ 和牛ロインは、その後緩やかに回復しコロナ以前の水準に戻る。
- ・ 輸入ロインは、一時低下後、現地価格の高騰や円安により大幅に上昇。

1-2 牛部分肉の部位別価格の動向（ヒレ）

図2 牛ヒレの価格指数（首都圏）



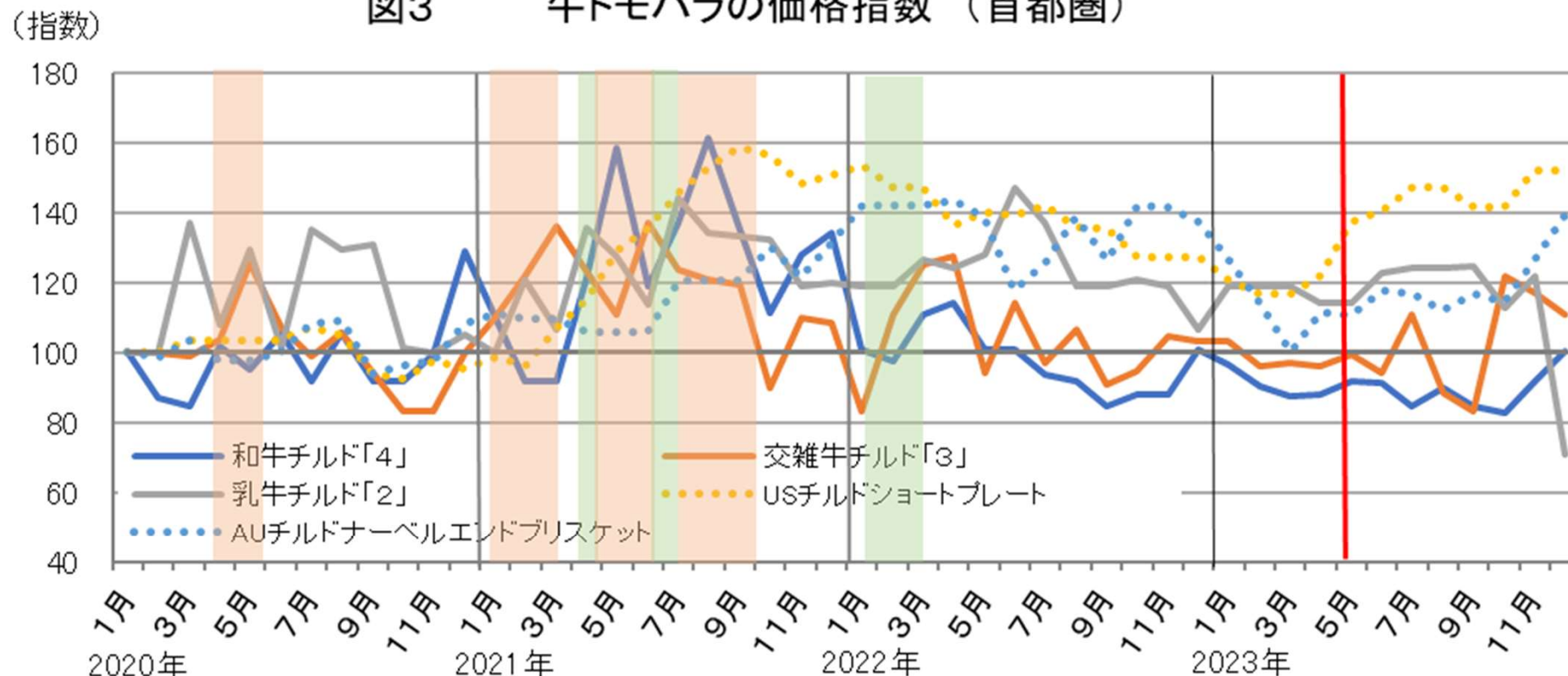
注1. 価格指数 = 各月の重量中央値 / 2020年1月の重量中央値 × 100

2. グラフ背景の は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間、赤線は5類へ移行を示す。

- 和牛ヒレは、ホテル等の需要が減少したことから大きく低下。
- コロナのまん延防止等重点措置解除により、和牛ヒレの需要が回復。これに合わせて、各畜種も上昇。
- 豪州産は、一時低下後、現地価格の高騰や円安により大幅に上昇。

1-3 牛部分肉の部位別価格の動向（トモバラ）

図3 牛トモバラの価格指数（首都圏）



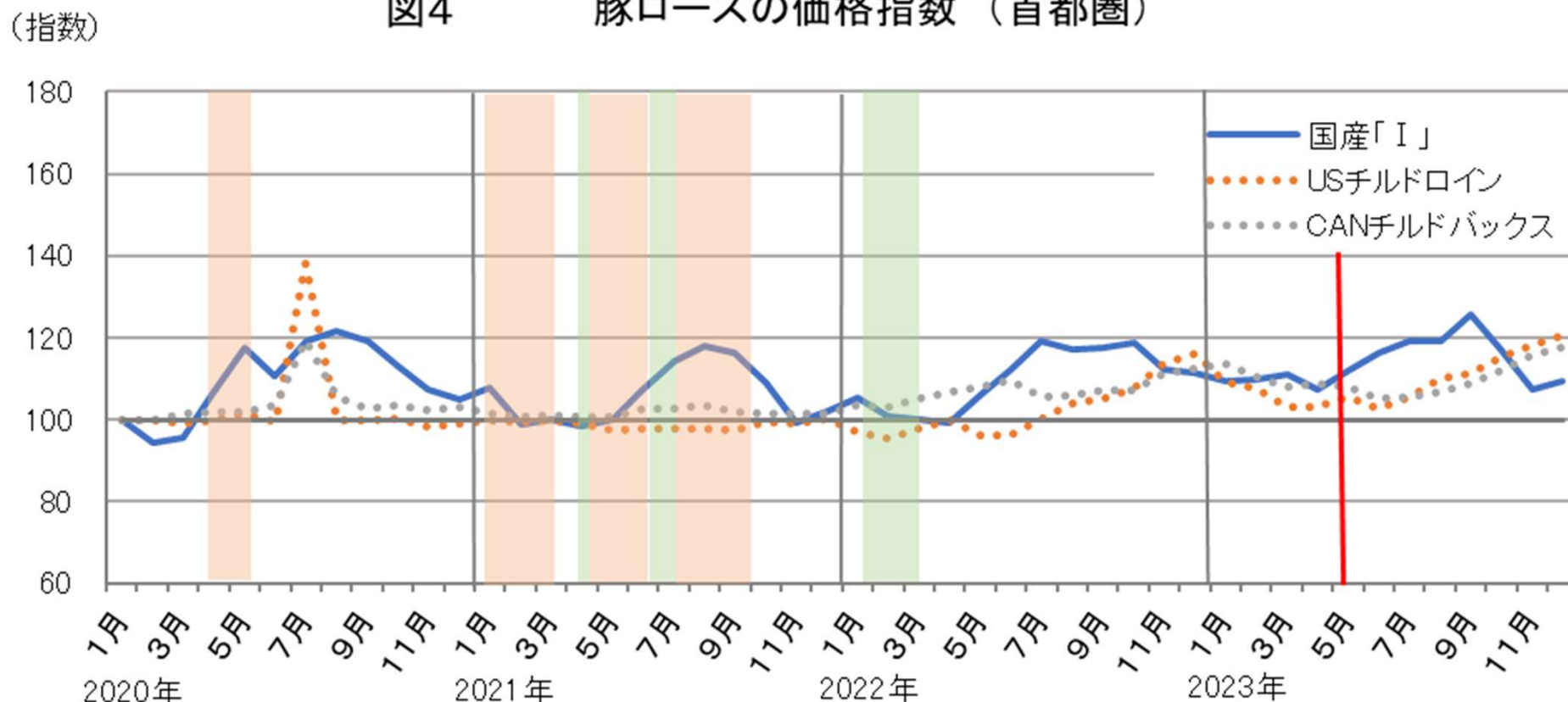
注1. 価格指数 = 各月の重量中央値 / 2020年1月の重量中央値 × 100

2. グラフ背景の は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間、赤線は5類へ移行を示す。

- ・ トモバラは、焼き材等として家庭内外での需要が根強く、コロナの影響下でも低下はみられず。
- ・ 輸入トモバラの上昇に伴って、国産も上昇。
- ・ 和牛トモバラは需要が伸びず、価格は低迷。

2-1 豚部分肉の部位別価格の動向（ロース）

図4 豚ロースの価格指数（首都圏）



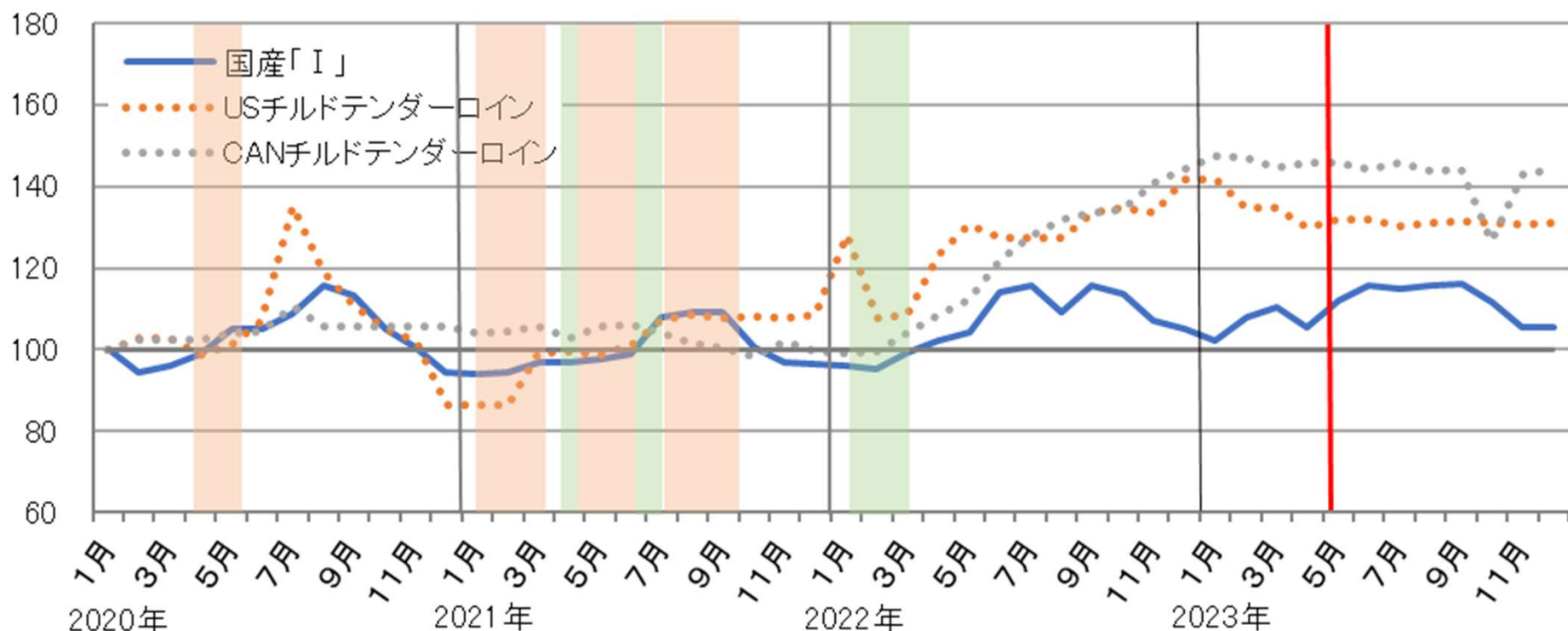
注1. 価格指数＝各月の重量中央値/2020年1月の重量中央値×100

2. グラフ背景の は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間、赤線は5類へ移行を示す。

- 国産ロースは、コロナの影響で巣ごもり需要が旺盛になったことなどから、堅調に推移し、国産の出荷頭数の減少により高水準。
- 輸入ロースは、2020年夏には米国でのコロナ影響により食肉工場の稼働の低下等により一時的に上昇。一時安定するも、円安により上昇。

2-2 豚部分肉の部位別価格の動向（ヒレ）

(指数) 図5 豚ヒレの価格指数（首都圏）

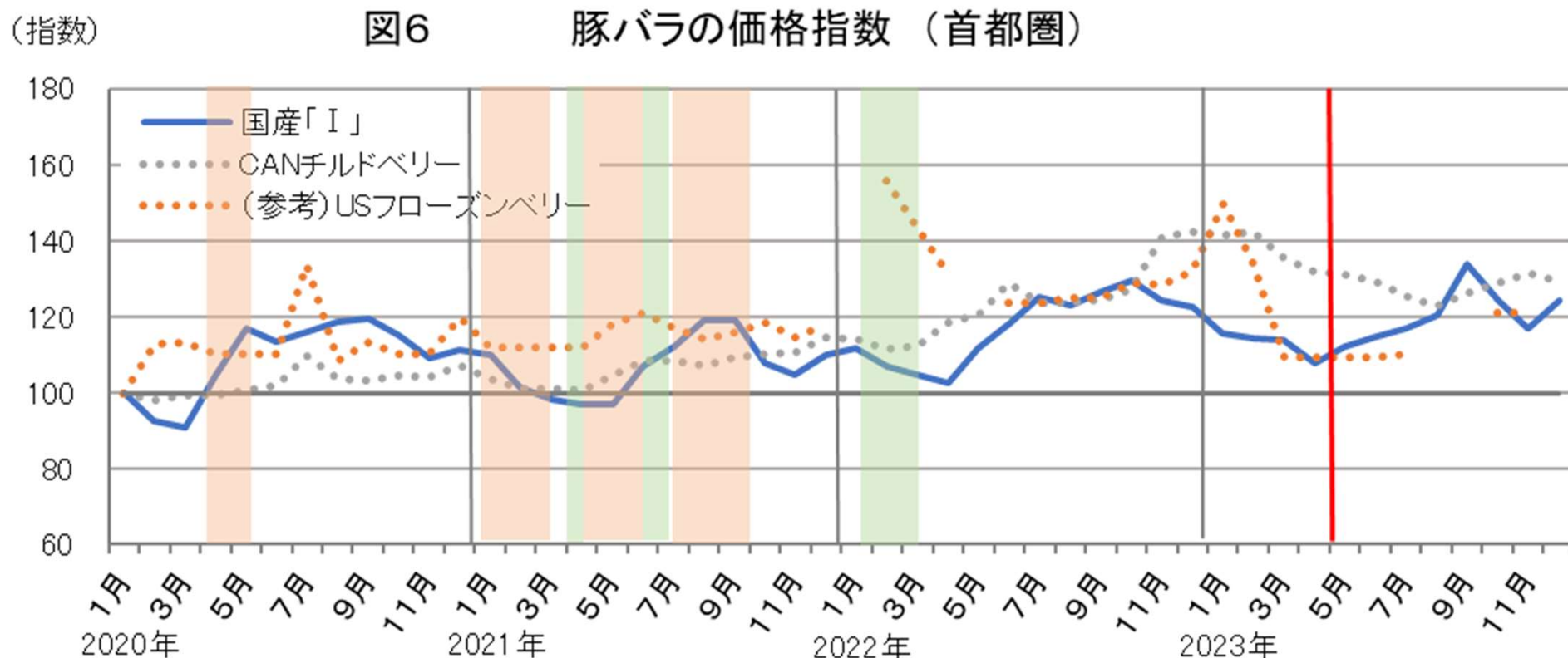


注1. 価格指数 = 各月の重量中央値 / 2020年1月の重量中央値 × 100

2. グラフ背景の は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間、赤線は5類へ移行を示す。

- 国産ヒレは、コロナによる大きな影響はみられず、夏場の需要期を過ぎるとある程度落ち着いて推移。
- 輸入ヒレは、2022年3月からの円安の影響で上昇し高水準。

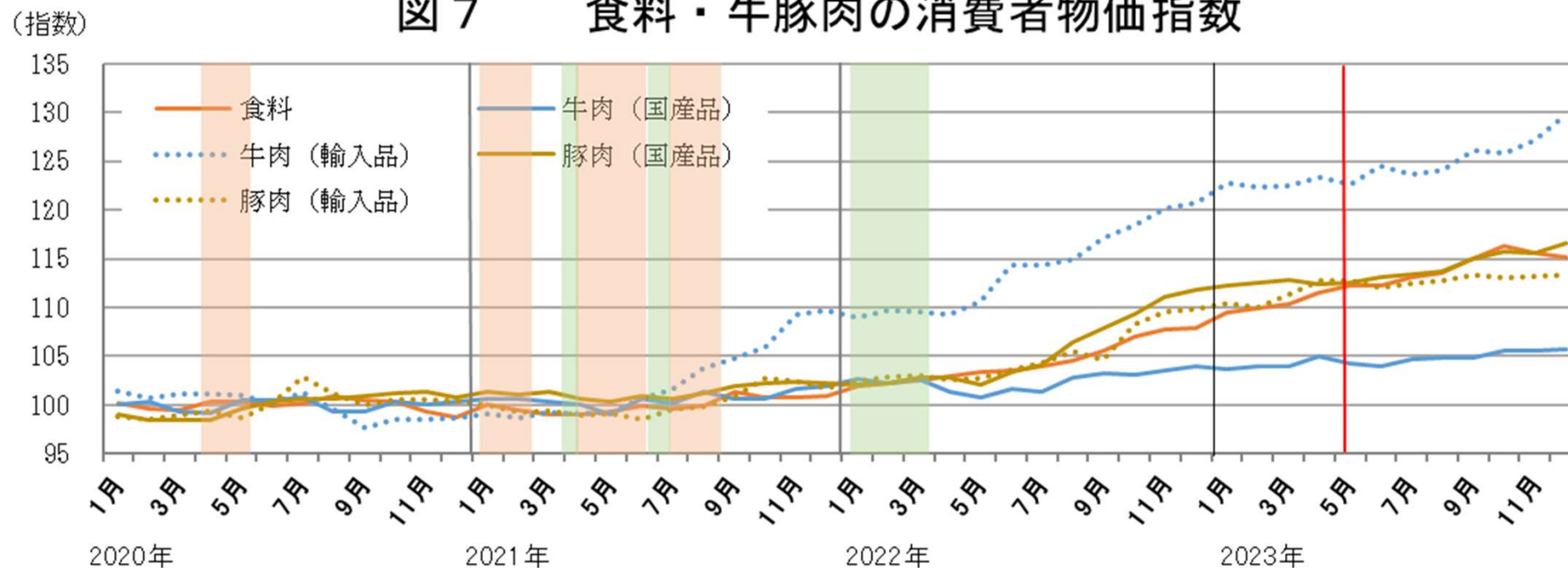
2-3 豚部分肉の部位別価格の動向（バラ）



- 国産バラは、焼き材等として家庭内外での需要が根強く、コロナの影響下でも低下はみられず。
- 輸入バラとの価格差縮小で引き合いが強い状態が続き、2021年半ばから上昇傾向。輸入バラの上昇もあって上昇し高水準。
- 輸入バラは、上昇傾向が続き、円安によりその傾向は顕著に。

3-1 小売の販売動向(小売価格)

図7 食料・牛豚肉の消費者物価指数



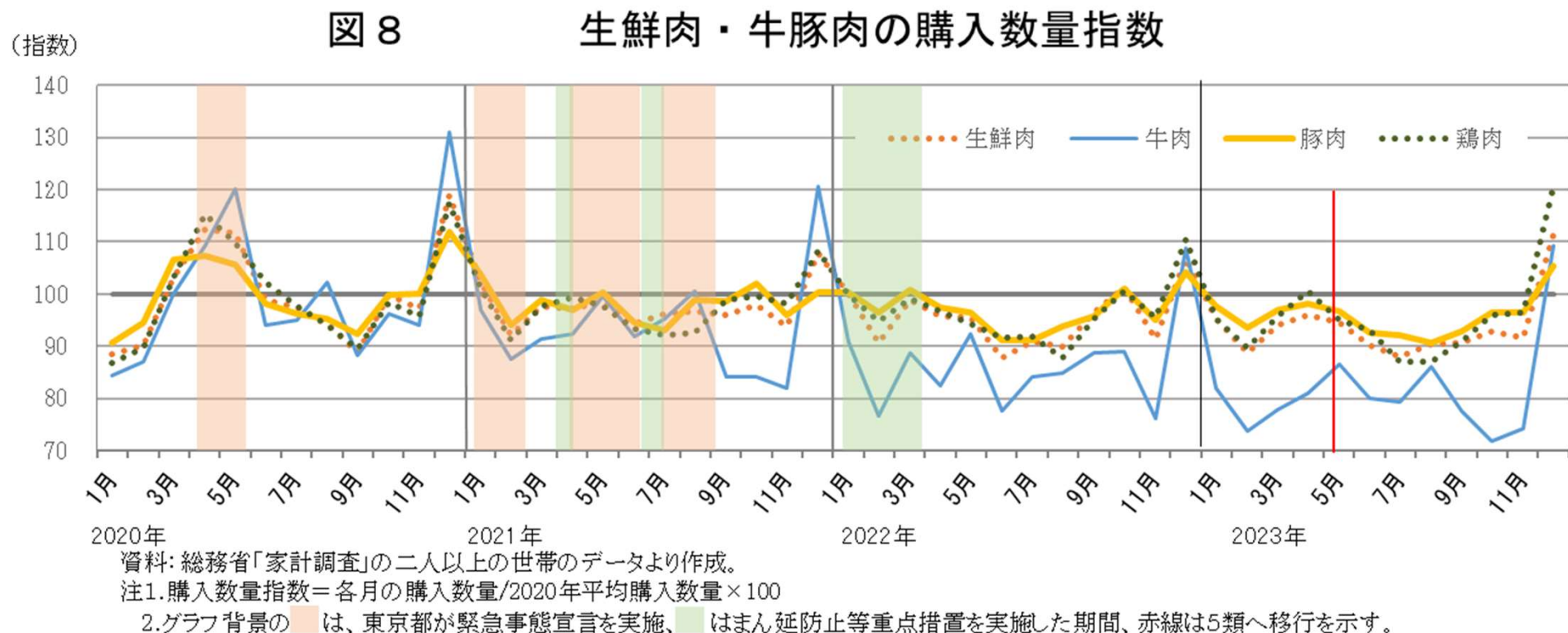
資料: 総務省「消費者物価指数」(全国)より作成。

注1. 指数は、2020年平均を基準(100)としている。

2. グラフ背景の は、東京都が緊急事態宣言を実施、 はまん延防止等重点措置を実施した期間、赤線は5類へ移行を示す。

- 穀物、原油等の国際相場の動きに連動するように食料の物価指数は2021年6月ごろから上昇し、食肉も種類を問わず上昇。
- 輸入牛肉は、円安により上昇が加速化し、米国産の生産量の減少もあって高水準。
- 国産牛肉は、消費者の生活防衛意識の影響により上昇は低い。

3-2 小売の販売動向(1世帯当たり食肉購入数量)



- 牛肉は、2021年半ば以降、低下傾向が顕著。2022年の指数平均は86.3と前年から7.5ポイント低下し、2023年は81.5とさらに4.8ポイント低下し、家庭の牛肉購入数量は大きく減少。
- 豚肉及び鶏肉は、2022年4月以降、100を下回り低下傾向で推移し、豚肉の2023年は95.9、鶏肉の2023年は95.6と、いずれも前年を1ポイント程度低下。

3-3 小売の販売動向(1世帯当たり食肉支出金額)

表 1 1 世帯当たり年間の購入数量, 支出金額及び平均価格

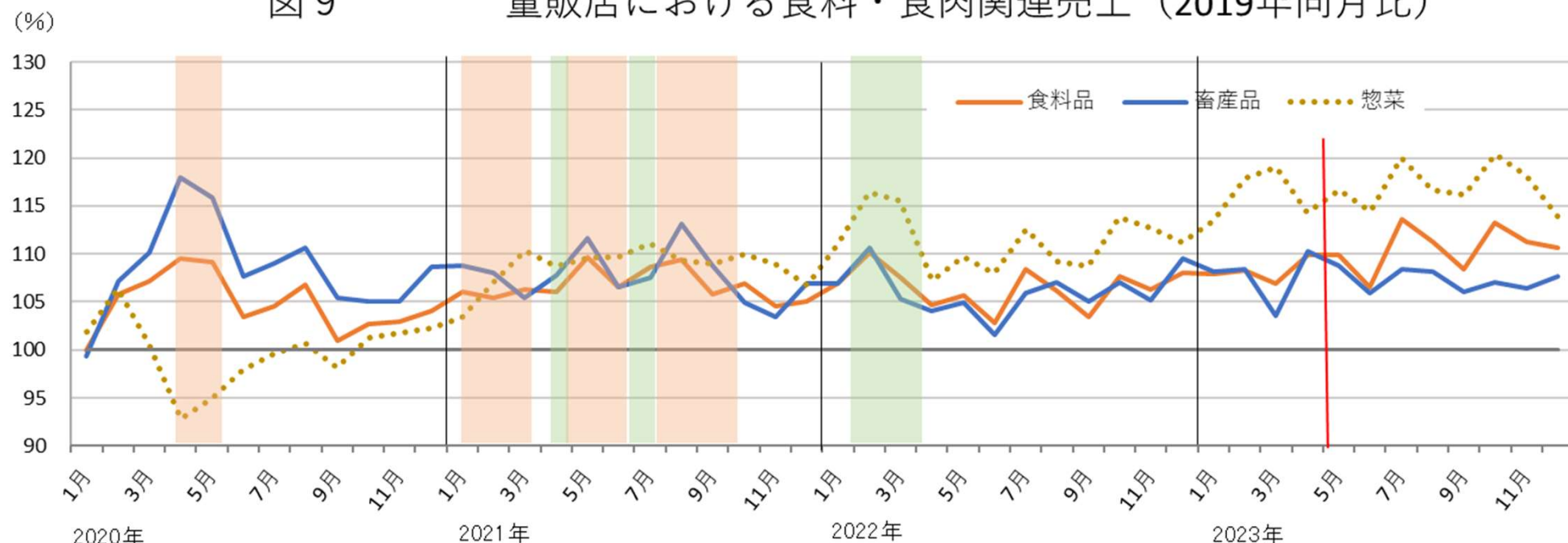
	2022年	2023年	対前年比
牛肉			
購入数量 (g)	6,202	5,853	94.4%
支出金額 (円)	22,356	21,449	95.9%
平均価格 (円/100g)	360	366	101.7%
豚肉			
購入数量 (g)	22,297	22,041	98.9%
支出金額 (円)	32,487	33,553	103.3%
平均価格 (円/100g)	146	152	104.5%
鶏肉			
購入数量 (g)	18,117	17,949	99.1%
支出金額 (円)	17,372	18,558	106.8%
平均価格 (円/100g)	96	103	107.8%

資料：総務省「家計調査」の二人以上の世帯のデータにより作成。

- ・ 食肉の支出金額は、豚肉が最も大きく、次いで牛肉、鶏肉の順。
- ・ いずれの食肉も平均価格は上昇しており、消費者の生活防衛意識から、特に価格の高い牛肉の購入数量が大きく減少。
- ・ このため、牛肉の支出金額は前年を下回り、豚肉及び鶏肉は前年を上回った。

3-4 小売の販売動向(量販店における売上)

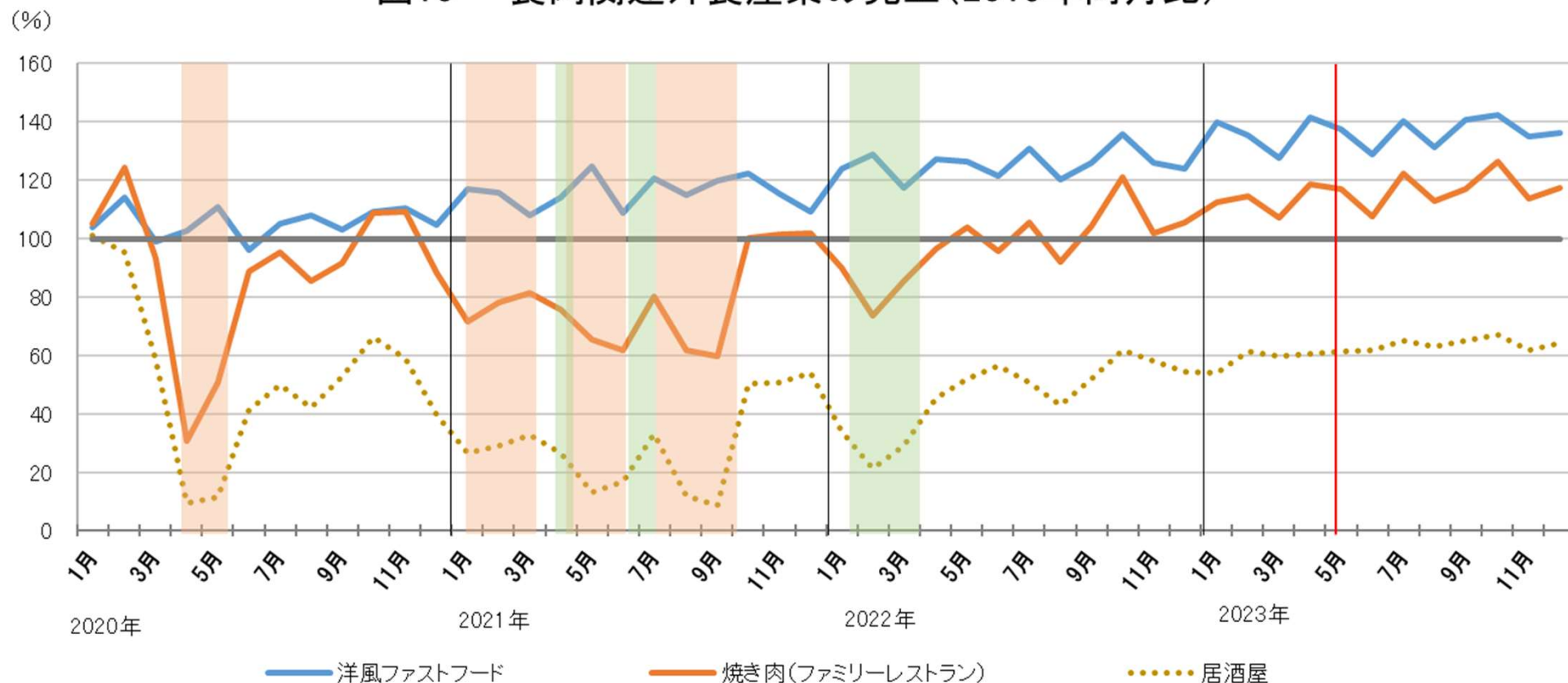
図9 量販店における食料・食肉関連売上（2019年同月比）



- 畜産品の売上は、コロナの影響によって内食需要が拡大し、食料品全体を大きく上回って推移。その後、食料品の比との差は縮小。
- 惣菜の売上は、**2022年**のまん延防止等重点措置期間に大きく伸び、その後も食料品と比べ好調に推移。

4 業務用食肉の販売動向

図10 食肉関連外食産業の売上(2019年同月比)



- 「焼き肉」は、2022年9月以降コロナ以前の水準を超えて推移。
- 「洋風ファストフード」はテイクアウトでの提供で、コロナの影響は少なく好調。一方、「居酒屋」は厳しい状況。

5-1 牛肉需要(推定出回り量)の動向

表2 牛肉の推定出回り量

単位：トン

	2020年		2021年		2022年		2023年	
	出回り量	対前年比	出回り量	対前年比	出回り量	対前年比	出回り量	対前年比
牛肉全体	924,029	98.1%	901,606	97.6%	874,661	97.0%	872,492	99.8%
うち国産品	329,824	102.2%	325,059	98.6%	337,251	103.8%	342,890	101.7%
うち輸入品	594,205	96.0%	576,548	97.0%	537,410	93.2%	529,601	98.5%

資料：農畜産業振興機構「牛肉需給表」より作成。

- 牛肉の国内需要量は、前年を下回る状況が続く。輸入牛肉の現地価格の上昇、物価上昇に伴う消費者の生活防衛意識の高まりなどが要因。
- 国産牛肉の需要量は、輸入牛肉との価格差が縮小したことから、牛肉需要が輸入から国産へシフトする動きもあり増加。

5-2 豚肉需要(推定出回り量)の動向

表3 豚肉の推定出回り量

単位：トン

	2020年		2021年		2022年		2023年	
	出回り量	対前年比	出回り量	対前年比	出回り量	対前年比	出回り量	対前年比
豚肉全体	1,817,921	100.4%	1,843,451	101.4%	1,843,486	100.0%	1,836,585	99.6%
うち国産品	913,256	102.3%	918,619	100.6%	907,024	98.7%	902,572	99.5%
うち輸入品	904,665	98.6%	924,833	102.2%	936,462	101.3%	934,013	99.7%

資料：農畜産業振興機構「豚肉需給表」より作成。

- 豚肉の需要量は、コロナの影響により内食需要が伸び、**2020年**から堅調に推移したものの、**2022年以降**は落ち着き前年並みの水準。
- 国産豚肉の需要量は、内食需要が旺盛になったことに加え輸入豚肉の調達に滞ったための代替需要もあり、**2020年及び2021年**は前年を上回って推移。
- 2022年以降**は、飼料高など生産面の制約もあり前年を下回って推移。

6-1 牛肉輸入の動向(輸入数量)

表4 牛肉の輸入数量

単位:トン

	2020年		2021年		2022年		2023年	
	輸入数量	対前年比	輸入数量	対前年比	輸入数量	対前年比	輸入数量	対前年比
牛肉全体	600,326	97.5%	584,519	97.4%	559,912	95.8%	503,932	90.0%
うち生鮮・冷蔵	261,309	95.2%	263,648	100.9%	216,986	82.3%	198,998	91.7%
うち冷凍	338,636	99.5%	320,621	94.7%	342,591	106.9%	304,494	88.9%

資料:財務省「貿易統計」より作成。

注:部分肉ベース。くず肉のうち、ほほ肉及び頭肉並びに煮沸肉を含む。

- 牛肉の輸入数量は、コロナの影響による外食等の需要の減少を反映して2020年から減少傾向で推移し、特に2023年は前年比90.0%とかなり減少。
- 牛肉調達の停滞や食肉工場の稼働低下、現地価格の高騰に加えて急速な円安による値上げの影響が、輸入環境悪化に拍車をかける状況。
- 特に、生鮮・冷蔵は、この影響を強く受け、2022年は前年比82.3%と大きく減少する一方で、その減少を補うかたちで冷凍は106.9%と増加。
- 2023年になると、冷凍も大きく減少したため、牛肉全体で前年比90.0%の減少。

6-2 牛肉輸入の動向(輸入価格)

表5 牛肉の部位別輸入価格

単位:円/kg

	2020年		2021年		2022年		2023年	
	輸入価格	対前年比	輸入価格	対前年比	輸入価格	対前年比	輸入価格	対前年比
生鮮・冷蔵								
うちロイン	1,377	90.8%	1,573	114.2%	1,951	124.1%	1,921	98.5%
うちかた・うで・もも	801	101.3%	924	115.3%	1,114	120.6%	1,146	102.9%
うちばら	626	98.0%	758	121.0%	880	116.2%	832	94.5%
冷凍								
うちロイン	642	93.3%	800	124.6%	1,123	140.3%	1,075	95.8%
うちかた・うで・もも	595	100.9%	665	111.7%	885	133.2%	879	99.3%
うちばら	380	92.0%	491	129.3%	682	138.8%	565	82.9%

資料:財務省「貿易統計」より作成。

- 輸入牛肉は、コロナ発生後に現地価格高となり、2022年3月からは円安でさらに調達価格は引き上げ。主要部位の平均輸入価格は、2021年は前年に比べ12～29%の上昇、2022年にはさらに前年比16～40%の上昇、2023年になると上昇は落ち着きくが、依然、高い水準。
- 食肉事業者からは、この調達価格の上昇に対し「高くて買えず、輸入牛肉の扱いが半分程度になっている」、「輸入が高く量販店等では苦勞の声しか聞かない」、「量販店では、輸入品の高値安定が続いている中、国産への回帰がみられる」との声。

7 豚肉輸入の動向(輸入数量)

表6 豚肉の輸入数量

単位:トン

	2020年		2021年		2022年		2023年	
	輸入数量	対前年比	輸入数量	対前年比	輸入数量	対前年比	輸入数量	対前年比
豚肉全体	891,093	93.0%	902,612	101.3%	976,199	108.2%	918,720	94.1%
うち生鮮・冷蔵	415,992	102.2%	419,989	101.0%	403,466	96.1%	393,192	97.5%
うち冷凍	475,061	86.2%	482,608	101.6%	572,693	118.7%	525,441	91.7%

資料:財務省「貿易統計」より作成。

注:部分肉ベース。くず肉を含む。

- 豚肉の輸入数量は、2020年には、外食や加工品向け需要が多い冷凍は大きく減少し、輸入数量全体は前年比**93.0%**と減少。
- 2022年は、冷凍が大きく増加したため、輸入数量全体は大きく増加。2023年になると前年に大きく増加した反動により冷凍が大きく減少し、輸入数量全体はかなり減少。
- 輸出先国は、日本にとって主要な輸入相手国である米国からの輸入が伸び悩む中で、近年、冷蔵ではメキシコ、冷凍ではスペインからの輸入量が増加傾向。

8-1 牛肉輸出の動向（輸出数量）

表7 牛肉の輸出数量

単位:トン

	2020年		2021年		2022年		2023年	
	輸出数量	対前年比	輸出数量	対前年比	輸出数量	対前年比	輸出数量	対前年比
牛肉全体	4,844	111.6%	7,877	162.6%	7,453	94.6%	8,418	113.0%
うちロイン	2,590	97.2%	4,547	175.6%	4,141	91.1%	4,480	108.2%
うちロイン以外	2,254	97.2%	3,330	147.7%	3,311	99.4%	3,939	119.0%
かた・うで・もも	1,345	121.4%	2,121	157.7%	2,076	97.9%	2,548	122.7%
ばら	665	144.2%	994	149.5%	1,039	104.5%	1,211	116.5%

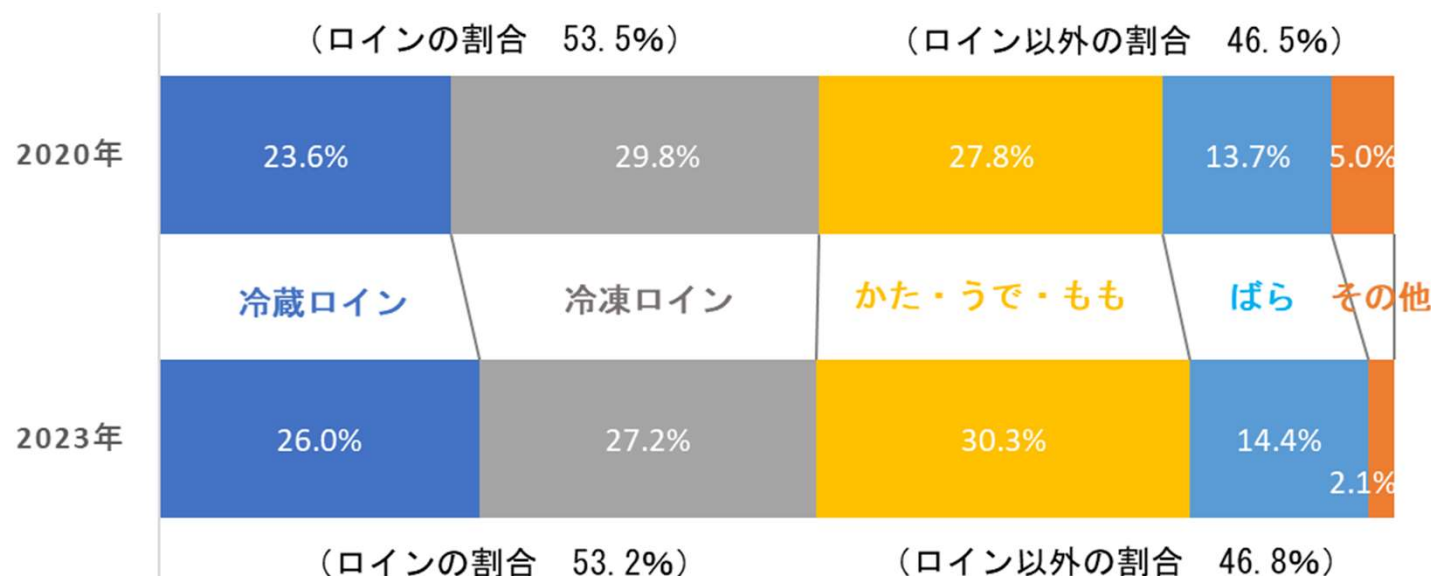
資料:財務省「貿易統計」より作成。

注:部分肉ベースである。

- 牛肉の輸出は、2020年から2021年にかけて米国やカンボジア向けを中心に大きく伸ばし、2022年には減少したものの、2023年には回復し過去最高。
- ロイン（ヒレを含む）の輸出は、2021年には前年比175.6%と大きく伸び、2022年には減少したものの、2023年には8.2%の増加に転じた。
- ロイン以外の輸出は、2022年は前年並、2023年は前年比119.0%と大きな伸び。

8-2 牛肉輸出の動向（輸出の構成割合）

図11 牛肉輸出数量の構成割合

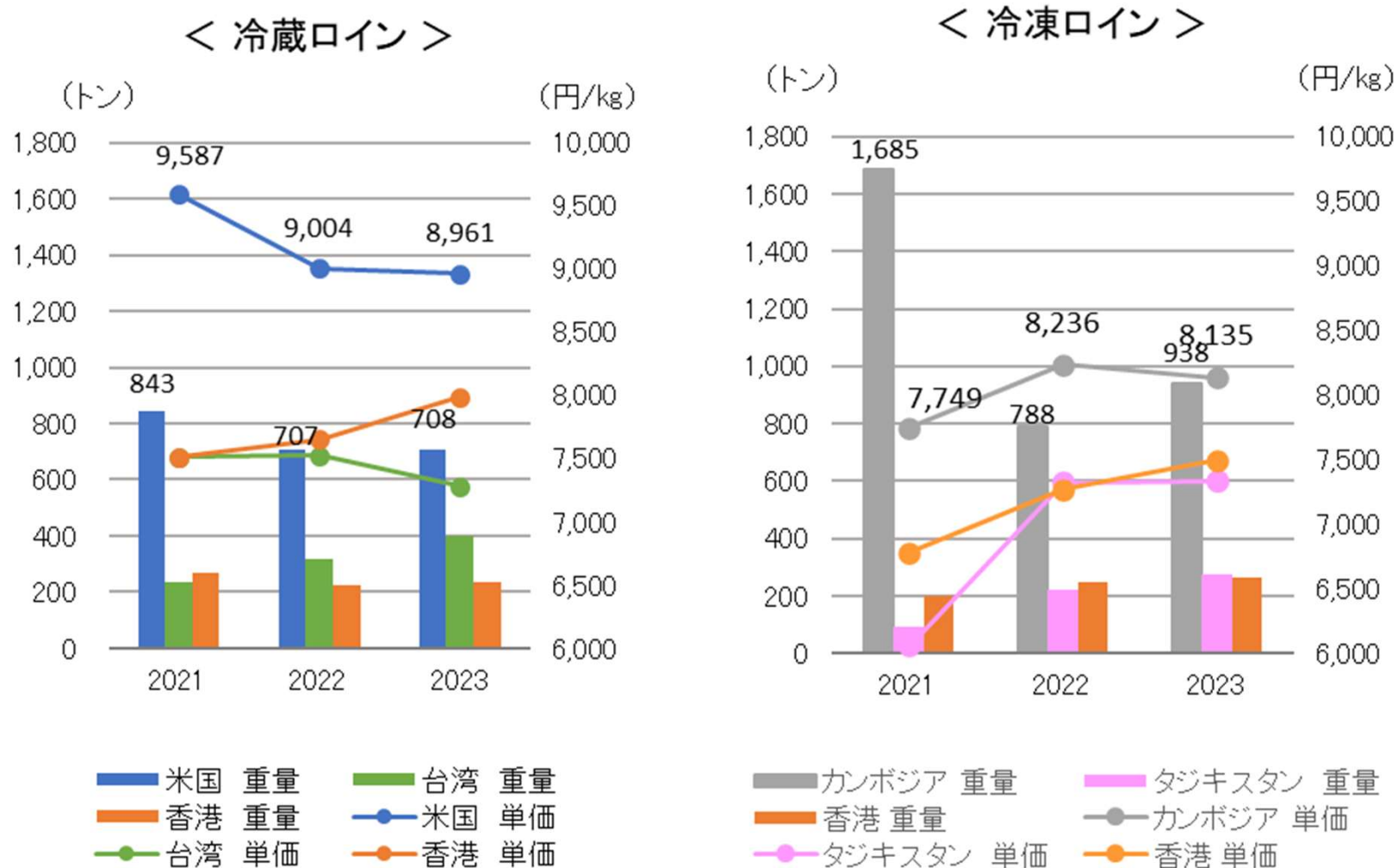


資料：財務省「貿易統計」より作成。

- 牛肉輸出数量に占めるロインの割合は5割を超えており、1頭に占めるロインの重量構成割合が**16%**程度であることを考えると、輸出部位はロインに傾斜している状況。
- ロイン以外では、『かた・うで・もも』及び『ばら』の輸出数量が伸び、**2023年**における割合は、**30.3%**、**14.4%**。
- 食肉事業者からは、特に和牛ロインの国内需給バランスに調整機能を果たしていると指摘。

8-3 牛肉輸出の動向（ロイン）

図12 ロインの輸出重量と取引単価（2023年輸出上位3か国）



資料：財務省「貿易統計」より作成。

◇ 食肉業者の対応

- ・ 販売の努力
- ・ インバウンドへの期待
- ・ 牛肉輸出の強化
- ・ 環境変化への対応

レポート・部分肉価格情報専門チャンネルのご案内

- 当センターのホームページで、定期的に食肉に関するレポートを公表。

◇最近の食肉をめぐる状況 令和6年（2024）3月1日公表

◇食肉業界の販売動向について 令和6年（2024）2月7日公表 等

<https://www.piif.jmtc.or.jp/report/>



- 部分肉価格情報専門チャンネル

『市況速報』 各地域をクリックしてご覧ください

※表項目の部分肉について、部位ごとの取引価格と取引重量の情報がご覧になれます

項 目	公表のサイクル/公表日	地 域
豚カット肉「I」	日 報（月～金曜）	首都圏 近畿圏
豚カット肉「I」・（週間）	週 報（火曜）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州
和牛チルド「4」	週 報（火曜）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州
乳牛チルド「2」	週 報（水曜）	首都圏 近畿圏 九州
交雑牛チルド「3」	週 報（水曜）	首都圏 近畿圏 九州
輸入牛肉	半月報（3日／18日）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州
輸入豚肉	半月報（3日／18日）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州

<https://www.jmtc.or.jp/>

